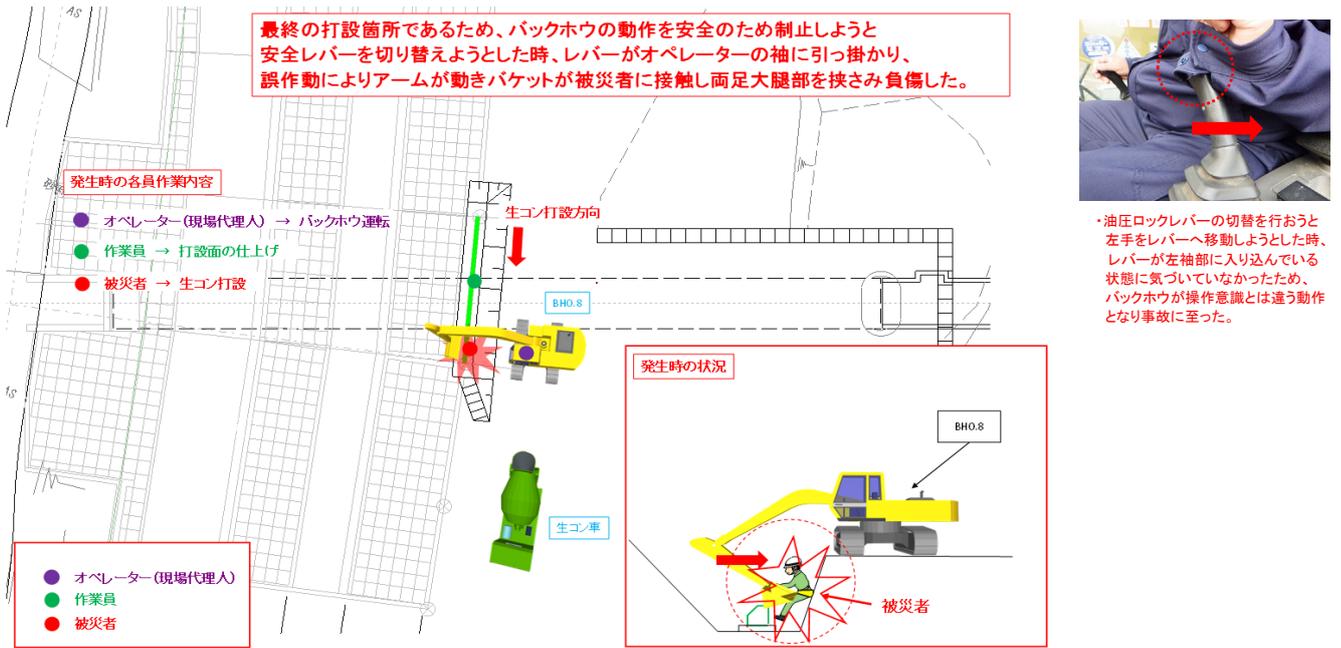


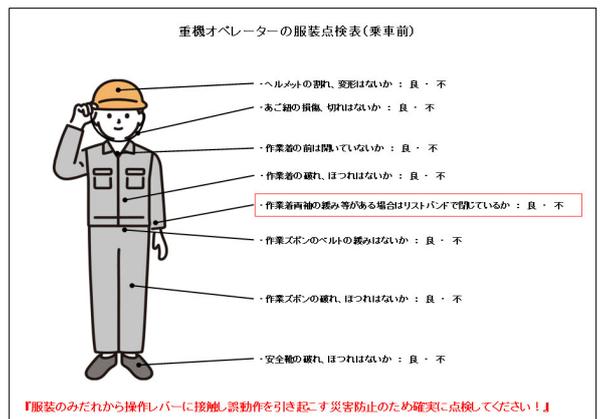
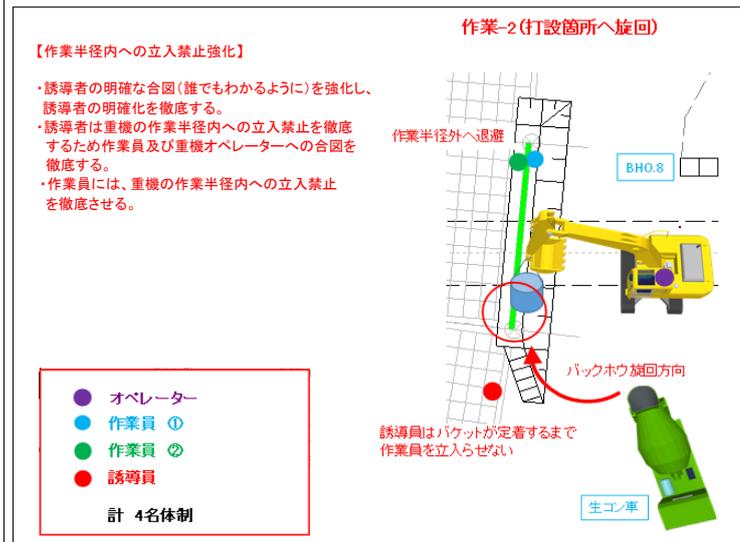
事故種類	労働災害	発生日時	令和6年12月23日 17時15分	事故当事者	2次下請け
事故区分	建設機械	年齢性別	40歳 男性	職種	普通作業員
被災程度(全治)	右脚大腿部骨折、左脚切断				
事故概要	法覆護岸基礎の中詰めコンクリート打設作業に際し、バックホウの動作を安全のため制止しようと安全レバーを切り替えようとした時、操作レバー(左側)がオペレーターの袖に引っ掛かり、誤作動によりアームが動きバケット先端が被災者に接触し、地山とバケットの間に挟まれ大腿部を負傷した。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> 作業員がバックホウの作業半径内にいる状態で、バックホウを運転させたことにより、被災者がバックホウの誤動作に巻き込まれた。 施工計画書では生コン打設作業はコンクリートバケットを使用することとしているが、バックホウのバケットから直接打設作業を実施したことにより、被災者の重傷化を招いた。 操作レバーが左袖部に入り込んだことにオペが気づかなかったことにより、バックホウの誤動作を招いた。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> バックホウ運転時は、作業半径内に作業員を配置しない。また、誘導員を配置し、バックホウの誘導及び作業員への注意喚起を実施する。 生コン打設時において、施工計画書に記載された施工手順を遵守する。 始業時に作業員の服装チェックを実施し、誤動作がおこらないよう注意するとともに、必要に応じてリストバンド等を着用する。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> 事故原因と対応策について、他工事にも徹底を周知する。 				

事故状況図



改善策

重機作業半径立入禁止措置の改善対策



【重機オペレーター服装の徹底】

- バックホウオペレーターの服装点検を乗車前に確認し、服装確認を徹底する。(指差呼称の徹底)
- 服装点検にて袖部の緩み等がある場合は、リストバンドで閉じて緩みを補強する。

事故種類	労働災害	発生日時	令和7年5月14日 10時00分	事故当事者	2次下請け
事故区分	その他	年齢性別	19歳 男性	職種	点検技術員
被災程度（全治）	両手人差し指第2関節の火傷（Ⅱ度）				
事故概要	発電機に過電圧が生じた際、保護用ブレーカを作動させるための継電器の点検を測定器を用いて行っていたところ、測定器の主電源スイッチを切った状態でも電気が流れるコード（ELB試験コード）があり、被災者がそのコードに触れ感電し、火傷した。（測定器の電源コードを差していた）				
事故原因等	①測定中に感電するなど全く考えていなかった。（想定外の認識不足） ②測定器の主電源スイッチが切れている状態であっても測定器の電源コードをコンセントに差すと電圧がかかるコードがあるなど、点検で使用する測定器の操作方法や注意事項を把握していなかった。 ③今回の点検では使用しないコード（事故原因）を測定器に接続していた。 ④測定器用電源ブレーカ投入時に、声かけが正しく伝わっていなかった。				
改善策等	①想定外の事故は事前に行うことができないので作業員の危険察知能力（気づき）を高めていくことが重要と考える。そのため、今後、KYTを定期的実施することにより危険察知能力を向上させ想定外を減らしていく。 ②KY時に作業責任者が一方的に話すだけでなく、作業分担ごとにチームミーティングを行い、各作業員が発言しやすい場を設け、危険ポイント・対策を挙げさせ意識の向上を図り、また、作業の区切りごとに、KY項目に追加が無い、危険ポイントは無かったか各チーム全員で確認し、再度内容の復唱を行う。 ③点検前に高電圧を発生させる測定器リストを下請けから元請けに提出することを依頼し、また、測定器の注意事項などについての講習会を元請けが開催するとともに、下請けに対しても開催依頼し、その際には元請も参加し共に安全意識を高める。更には、元請けによる現場パトロールにて講習内容が反映されているか作業員一人一人に確認し、また、作業前ミーティング時には作業責任者が測定器を扱う作業員に対し講習会を受講しているか確認を行う。 ④点検で使用しないコードは不用意に測定器に接続しないようにコード接続箇所にかバーを取り付け注意喚起シールを貼り付ける。 ⑤電源投入時の声かけを行った際は作業員全員が作業を一旦中止し応答することを作業前ミーティング時に周知徹底する。 ⑥現場作業日報記録表、危険予知活動表、新規入場者教育用様式に、測定器の使用方法を把握しているかどうか、電源投入の声かけを行った場合に応答することなどのチェック項目を追記する。				
類似工事（他工事）へ活用できる対策等	①情報共有メール、安全協議会及び安全訓練等で周知を図る。				

記録者③が漏電ブレーカを投入したところ、測定者（被災者）①がELB試験コードに触れ感電し、火傷した。

事故状況図

感電時の状況
(ELB試験コードに触っていた)



測定器主電源OFF状態でもELB試験コードに電気が流れる

電圧：AC433V

電源コード

主電源OFF

ELB試験コード（今回の点検では不要）



①：測定者（継電器試験器を操作、今回の被災者）
 ②：作業指示者（作業全般の指示役）
 ③：記録者（測定者の読んだ数値等をデータに記載）

改善策

点検で使用しないELB試験コードを安易に接続できないように接続箇所にかップを取り付けた



電源コードとELB試験コードを同時に測定器に接続できないように結束した



改善策

①安全に対する意識の向上：KYTを定期的実施し、危険察知能力を向上させ想定外を減らしていく。

②KYTの見直し：作業員からも危険ポイント、安全対策を発言させ、安全意識を高める。
 声掛け作業が発生する場合は作業中断、応答することを周知徹底する。

③測定器使用の教育：高電圧を発生させる測定器リストを作成し、測定器の講習会を実施する。

④測定器再発防止対策（上写真）：接続しない箇所へのキャップ取付、電源コードとELB試験コードを結束し、電源コードをコンセントに差している状況ではELB試験コードが装置本体に接続できないようにする。

⑤安全資料様式の改善：現場作業日報、危険予知活動表、新規入場者教育用様式の改善

事故種類	労働災害	発生日時	令和7年6月16日 15時00分	事故当事者	元請
事故区分	その他	年齢性別	32歳男性	電気工	作業員
被災程度(全治)	右中指切創・右中指伸筋腱断裂、右環指切創、右示指捻創(全治約1ヶ月の通院治療)				
事故概要	CCTV用発電機点検中に法面でバランスを崩し、ファンベルトに右手中指を挟まれ負傷した。				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> 作業員(被災者)が法面(降雨後で滑りやすい状況)でのCCTV用発電機の点検中(発電機の回転数の計測)に足が滑りバランスを崩したことで、転倒を防ぐためにとっさに回転しているファンベルトを掴んでしまい、ファンベルトに右手中指を挟まれ負傷した。 通常は回転部への巻き込み防止パネルが設置されているが、回転数を計測する点検のためパネルを外していた。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> 法面等、足場が不安定な場所で作業する場合の注意点を履行計画書(作業手順書)に記載し、事故防止を図る。 作業場所、作業当日の気象条件等を念頭に置いたKYミーティングを実施し、降雨等により現場条件が変化した時は、作業計画を必要に応じ変更し作業員全員の意識の共有を図る。 点検の際、ファンベルトに直接触れることがないように、点検器具を作成、取り付けした状態で点検を行う。 法面での点検の際には、斜面で安全に作業が可能な機材を準備し点検を行う。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> 履行計画書(作業計画書)に対策を明記することで、事故の防止を図る。 作業場所、作業当日の気象条件等を念頭に置いたKYミーティングを実施し、作業員全員の意識の共有を図る。 法面等、不安定な場所での作業の際には斜面でも安全に作業が可能な機材を準備し点検を行う。 				

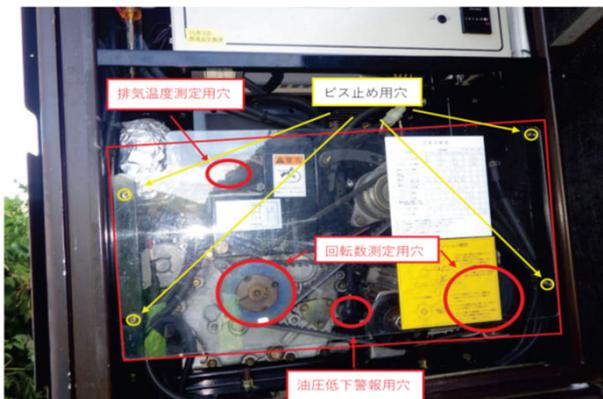
事故状況図



斜面で足が滑り、ファンベルトを掴んでしまったことでベルトに巻き込まれて被災した。

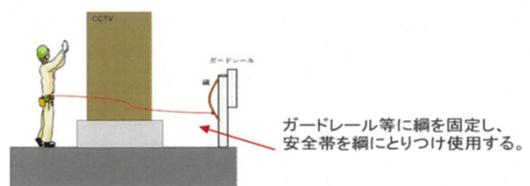
改善策

小容量発電機(CCTV用発電機・情報板用発電機)設置状況に応じた安全対策

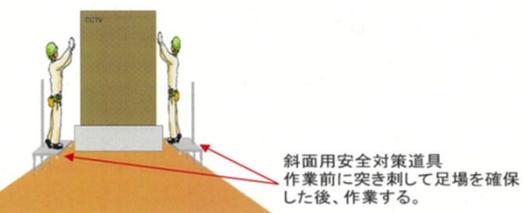


- 上記のような測定用の穴を開けた点検治具を作成し、発電機を起動させる際は、必ず点検治具若しくは元のアクリルカバーを付けた状態で行う。
- 点検治具を用いた点検を行うことを作業手順書に記載し、作業員全員に周知徹底するよう教育を行う。

1. 高所になる場合

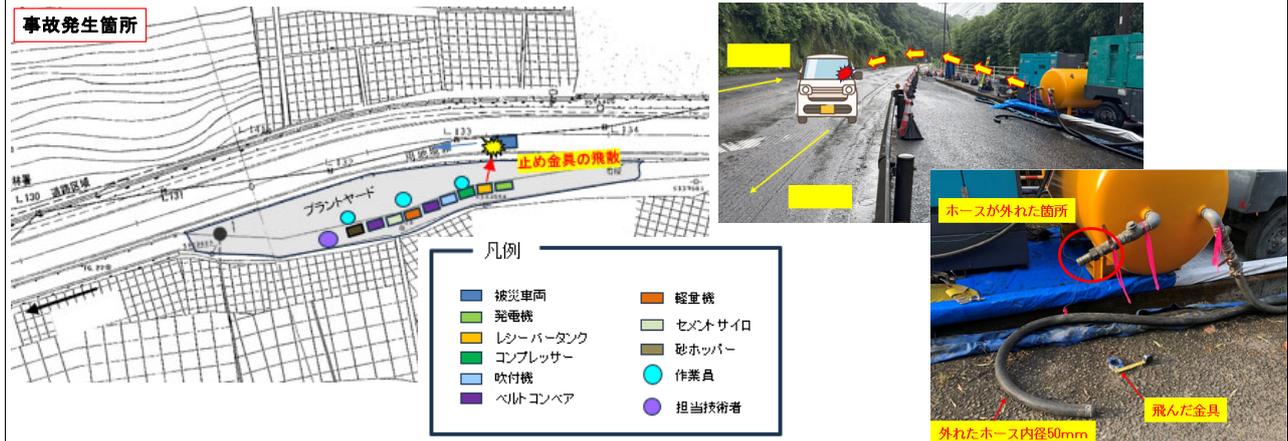


2. 斜面の場合



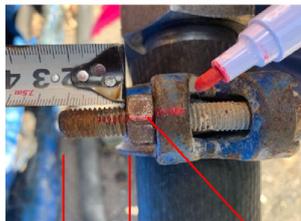
事故種類	公衆災害	発生日時	令和7年7月16日 16時2分	事故当事者	2次下請け
事故区分	飛来・落下	年齢性別	-	職種	-
被災程度(全治)	一般車両の左側フロントガラスの破損・けが人無し				
事故概要	<p>法面吹付の準備段階において、道路沿いの駐車帯に吹付プラントを設置し、試運転を実施したところ、レシーバータンクの方から「ブシュー」と空気がしたため、異常を感じコンプレッサーの運転を停止させようとしたところ、「パン」という音と同時にレシーバータンクからホースが外れるのを確認した。その後直ちにコンプレッサーの運転を停止させ、確認したところ、コンプレッサーからレシーバータンクへ空気を圧送するホースの止め金具(レシーバータンク側)が外れ、国道に飛び、走行中の一般車両に損傷をあたえた。</p>				
事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・止め金具(インターロックバンド)のボルトがしっかりと締まっていなかった。 ・プラント設置時にホースの止め金具(インターロックバンド)のボルトをしっかりと締めた認識であったため、試運転時にそのチェックを行わなかった。 ・繰り返し使用していたホース内部の摩耗により、ボルトの締付が十分に行われていなかった。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・止め金具(インターロックバンド)の締め付け後にゆるみがないか、目視及び数値で確認できる様、ボルト及びナットに合いマークを付け、ボルトの長さを計測する。 ・そのチェック項目を作成し、点検者と元請職員によるダブルチェックを行う。 ・止め金具(インターロックバンド)を取り付けていたホースの摩耗している箇所を切断し、摩耗していない新しい箇所を機器に接続する。 また、ホースが抜けそうになっていないか目視及び数値で確認ができるように、止め金具(インターロックバンド)と取り付け金具の間の長さを計測する。 ・ホースの暴れ防止及び止め金具(インターロックバンド)の飛び防止として、ホースをレシーバータンクにワイヤーロープにて連結し、止め金具(インターロックバンド)はホースに繋いだワイヤーロープに番線にて連結する。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・止め金具(インターロックバンド)の締め付け後にゆるみがないか、目視及び数値で確認できる様、ボルト及びナットに合いマークを付ける。 ・ホースの暴れ防止及び止め金具(インターロックバンド)の飛散防止対策として、ワイヤーロープ及び番線にて連結する。 				

事故状況図

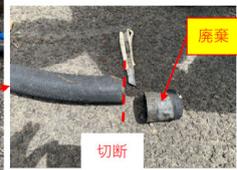


改善策

ボルト及びナットに合いマークを付け、ボルトの長さを計測。
そのチェック項目を作成し、点検者と元請職員によるダブルチェックを実施。



摩耗していない新しい箇所を機器に接続。



ホースをレシーバータンクにワイヤーロープにて連結し、止め金具(インターロックバンド)はホースに繋いだワイヤーロープに番線にて連結。

